

2. 令和8年度学校経営について

校訓 創造・友愛・健康

I. 学校教育目標

変化する社会にたくましく生きる人を育てる
～感じる! 考える! 行動する!～

現在の世の中は人工知能や AI の急激な進化や技術革新に伴い、社会全体の構造が激しく変化しています。あるシンクタンクの調査によりますと、日本の労働人口の49%がコンピュータで代替可能になるとレポート発表しています。従来通りの教育（認知能力）では、世の中に通用する人材を育てることはできません。今からの教育は、認知能力に加えて、非認知能力と探究学習（PBL:課題解決型学習）向上も不可欠です。

II. 重点目標

1. 学校教育目標を実現するための取り組み

(1) 知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成

本校では、非認知能力と探究学習（PBL:課題解決型学習）の重要性を教職員や生徒のみならず、保護者や地域コミュニティにも理解していただき、この能力の向上に努めて参ります。取り組みの第一歩は、非認知能力を「挑戦、尊重、自分事、そうぞうする、批判的に考える、比較・検討する、協働する」の7つに分類しました。これを、授業のみならず、生徒会活動、修学旅行、体育祭・文化祭等、あらゆる教育活動に意識させます。生徒たちにこの能力を身につけさせるために数多くのギミック（仕掛け）を提供しました。たとえば、「民間企業や自治体・地域コミュニティと連携した総合的な学習」「生徒主体のルールメイキング活動」等です。これらは、本校のテーマである『学校でしかできない「学ぶ喜び」をすべての生徒に』の実例です。その結果、アンケートに加えて保護者からの声も高い評価となっております。今後も学力（認知能力）と非認知能力及び課題解決型学習（PBL）により、知・徳・体のバランスの取れた「生きる力」の育成に努めて参ります。

「知」の育成には生徒の実態に即した指導方法の確立と定着を重点にすえ、生徒の学力（認知能力）の確かな定着と生徒の自立を育む教育（非認知能力）の充実を図ります。また、学び探究委員会や教科部会を中心に教員の指導力を磨き、授業改善や日々の指導方法の工夫を積極的に進めます。

「徳」や「体」の育成では命の大切さや人を思いやる豊かな心や健やかな身体を育むため、道徳教育を核とした心の教育の充実や生徒の体力向上に向けた取組を推進します。なお、取組の中心を担う教職員が子どもたちと向き合う時間を確保し、果たす役割をしっかりと果たしていけるよう、「学校における働き方改革」「一部業務の業務委託」について、計画的に進めて参ります。

(2) 人権を尊重した教育の推進

すべての生徒が安心して自らの力を発揮することができ、学ぶ喜びを感じる学校とするために、生徒一人ひとりが人としての尊厳を感じながら成長しなければなりません。そのために、いじめや体罰等により生徒の大切な人権が、決して傷つけられることのないよう、学年会及び教科部会や生徒指導部会等において全教員が人権および人権課題に関する正しい理解を深めるとともに、教育のあらゆる場において人権教育を推進します。

(3) 教職員の倫理観・規範意識の向上

生徒たちに集中して取り組める落ち着いた雰囲気での授業と不安のない学校生活を保障し、規律を重んじた秩序ある学校を確立することは、信頼される学校として必要不可欠なことであります。

そのため、生徒たちの規範意識を育むことはもちろん、教職員が生徒・保護者・地域との信頼関係を構築できるよう、教育公務員としての倫理観や規範意識の向上に努めます。

2. 義務教育 9 年間を見据えた取組・・・小中一貫教育の推進

変化の激しい未来を生き抜くための9年間の学びを!

～探究活動を通じて、主体的に課題を解決し、ともに生きる力を育てよう!～

<めざす子ども像> (楠葉西中学校・樟葉西小学校・樟葉南小学校 共通)

- (1) (課題を見つけて)新しいものを創り出せる人
- (2) (固定概念にとらわれず)柔軟に行動できる人
- (3) 思いやりのある人(自分・他者・世界)

<めざす学校像>

- (1) 指導方法の工夫改善に努め、わかりやすく魅力ある授業を展開し子どもの学ぶ意欲を引き出す学校
- (2) 道徳教育と人権教育を核とした心の教育を大切にし、子ども一人一人が安心して学べる安全な学校
- (3) 豊かな人間関係づくりや集団づくりを進め、人としてのマナーや規範意識を身につけさせる学校
- (4) 学校情報の積極的な公開と外部の人材活用による開かれた学校
 - ・学習規律の徹底による落ち着いた学習環境のもと、「学びのサイクル」をめざした取組も展開し、子ども一人一人の「生きる力」を育成する。
 - ・子どもの実態に即して「小中一貫教育」を展開し、小中学校9年間を見据えた系統性・継続性のある学習指導、生徒指導を実施し、基礎・基本の確実な定着を図る。
 - ・日常の授業交流等を通して、校区内の「小・小」「小・中」の連携を図り、小中学校の円滑な接続に努める。
 - ・小中学校が連携し、学習規律や基本的生活習慣を確立し、学力向上の礎とする。
 - ・命の大切さや人を思いやる豊かな心と健やかな身体を育むため、道徳教育を核とした心の教育の充実に取り組む。
 - ・体力や生活習慣、食習慣、運動習慣を把握し、体育・健康に関する指導の改善に資するとともに、体力向上に努める。
 - ・英語教育については、9年間を見据えたカリキュラムを作成し、英語暗唱大会等を実施するなど、英語によるコミュニケーション能力の育成に努める。